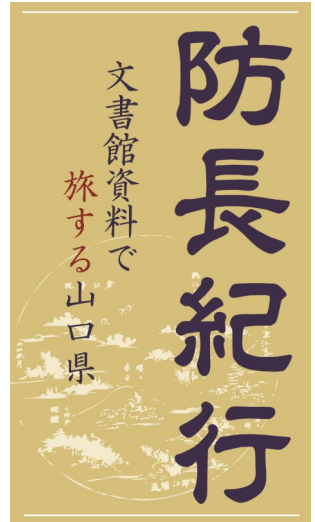


湯田温泉名所及旅館案内図（土山家文書606）



## 大正～昭和初期の湯田温泉(2)

### 《泉源の保護と管理》

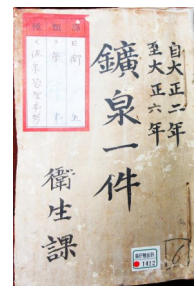
入浴客数の増加にあわせ、湯田温泉の旅館は客室や内湯の整備を進めました。昭和8年(1933)に水野旅館が内湯増設の許可を県に願い出た理由は「近時客室ノ増設並ニ団体客ノ増加ニ依リ従来ノ内湯一ヶ所ニテハ甚ダ不便多ク、殊ニ婦人客ニ対シテハ小ナル内湯設備ノ必要ニ迫ラレ出願シタル」(「鉱泉一件」県庁戦前B1414)というものでした。温泉地の旅館経営において、個人旅行から団体旅行への旅行スタイルの変化や、女性客増加への対応が重視されていたことが窺えます。

各旅館の内湯化が進むにつれて、「無尽蔵」と言われた湯田温泉の湧出量は、次第に枯渇や泉温低下が懸念されるようになりました。入浴客数が増加した大正～昭和初期は、県による泉源保護・管理が強化された時代でもありました。

大正12年(1923)に県が最初に制定した「鉱泉規則」では、鉱泉を「温泉

冷鉱泉」と定義し、鉱泉の試掘や鉱泉営業を許可制としました。その後、昭和10年の改正(山口県令第45号)で、新規穿掘は既設鉱泉より100m以上離すことや、公益上必要がある場合に県が鉱泉の湧出や揚泉の停止を命令できるよう定めました。さらに昭和12年の改正(県令第94号)では、鉱泉保護を目的とした組合の設立を認めました。

また、昭和5年には、温泉所在地の警察署に対し、年4回の湧出量・温度調査の実施を命じました。昭和8年に実施された調査では、湯田温泉について「現湧出地ヲ距離ニ依リ制限セントスルハ現湧出地余リニモ一方ニ偏倚シ居ルヲ以テ困難カト認メラレ強テ距離ニ依ラントセバ既設鉱泉ヨリ二百米位トセバ大ナル支障ナキモト認メラル」と山口署は報告しています。県内で最も多くの泉源が集中していた湯田温泉は、新規穿掘にあたり、他の温泉地よりも厳しい制限(既設鉱泉より約200mは離す)が必要とされていました。



鉱泉一件  
(県庁戦前B  
1412-1415)

大正期以降に県警察部衛生課所管で進められた温泉(行政用語としては「鉱泉」)の保護と管理に関する文書綴です。大正2-昭和9(1913-1934)までの4点を所蔵しています。

昭和8年に静岡県警察部から照会のあった「温泉場取締上最も困難ナル事項並之ニ対スル処置方法等」に対し、県は「山口市湯田温泉ノ如キ地下数尺ニシテ容易ニ温泉ヲ獲得シ得ベキ地域ニ於ケル温泉濫掘防止位ナリ、之ニ対シテハ鉱泉規則ニ依ルノ外、所轄山口警察署長ニ命ジスル違反行為ナキ様取締ヲ励行セシメツ、アルモ未ダ徹底ヲ欠グノ嫌アリ」と回答しており、県全体の泉源管理施策の中でも、湯田温泉の泉源「濫掘防止」は課題であったことが窺えます（「鉱泉一件」県庁戦前B1414）。

### 《傷痍軍人療養所の開設》

日清戦争以降、戦傷病者の療養のため、各地の温泉に陸海軍の臨時療養所が設立されるようになりました。昭和13年には、第五師団湯田臨時転地療養所が山口県電気局保健寮および山口温泉ホテルを借り上げて設置されています。一方、日中戦争の拡大を受けて、全国で10ヶ所の温泉地に軍事保護院傷痍軍人温泉療養所が開設されました。このうち、最初に開所をみたのが湯田温泉療養所です（昭和14年）。設立に至ったのは、山口市や湯田温泉関係者が熱心な誘致活動を行ったことや、市内に歩兵第四十二聯隊が駐屯していたことに加え、設置地の選定に際し軍事保護院が示した湧出量

や泉温に関する基準（供給し得る湯量が最低一昼夜650石以上、敷地内に到着した湯の温度は摂氏45度以上）に湯田温泉が適合した結果といえます。

定員75名の療養所内には各種浴場や電気治療が行える治療室、付添人用の居室や浴室なども設けられ、3495坪という広大な敷地には花壇や芝生、常緑樹が豊富に配置されていました（「傷痍軍人湯田温泉療養所建設一件」県庁戦前B3061）。大正期以降、歓楽地としての傾向が強まっていた湯田温泉にとって、傷痍軍人療養所は、兵士の傷病を癒す優れた療養地であるという「温泉報国」のイメージ戦略上の効果を期待できる存在でした。

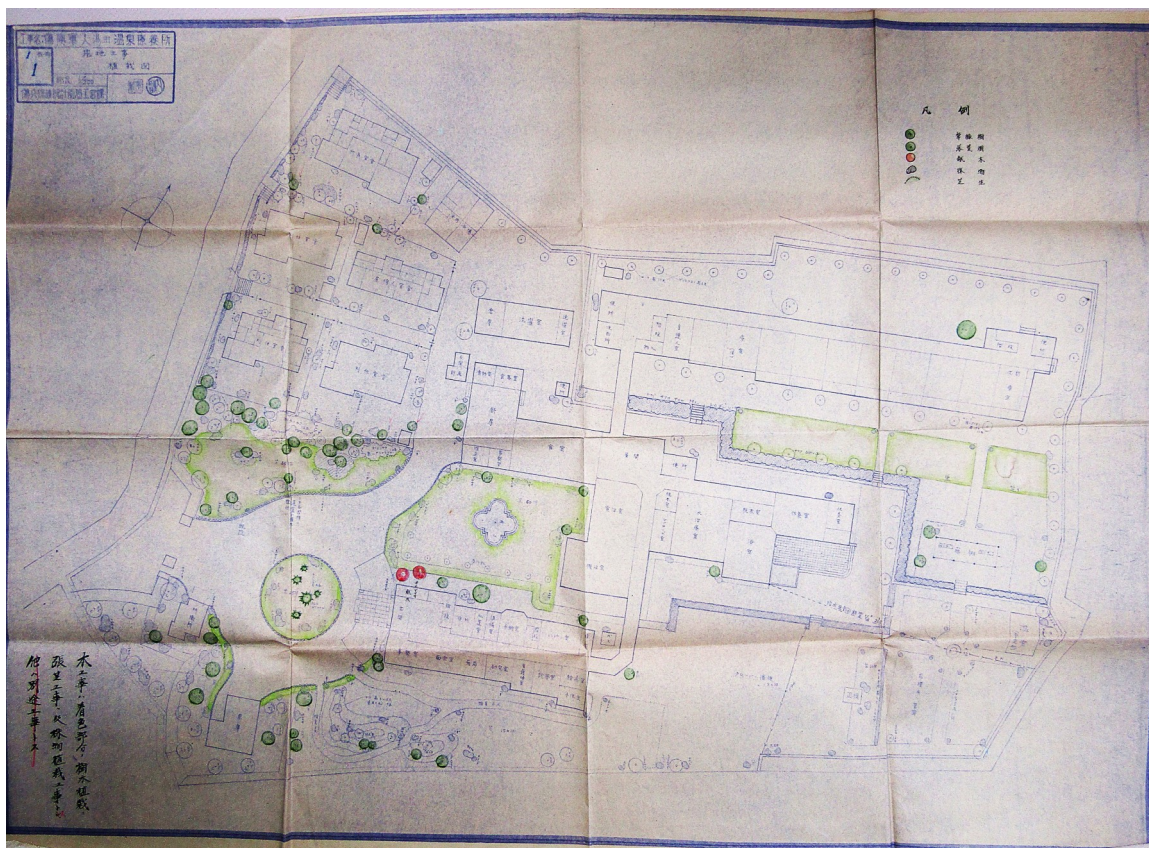
昭和19年に県健民課が作成した「湯田温泉の現状」（山口大学図書館蔵）は、湯田温泉の泉温低下の原因として、泉源の濫掘に加え、湯田温泉株式会社や第五師団臨時転地療養所による温泉使用量の増加、吉敷川の改修を挙げています。傷痍軍人療養所の開設もまた同様に影響を与えたと考えられます。

#### 【参考文献】

笠井雅道「戦前の花巻温泉-観光開発から温泉報国へ」（『富士大学地域経済文化研究所研究年報』No.5、1997年）

関戸明子『近代ツーリズムと温泉』（ナカニヤ出版、2008年）

『山口市史 史料編 近代』（山口市、2012年）



▲傷痍軍人湯田温泉療養所平面図（「傷痍軍人湯田温泉療養所建設一件」県庁戦前B3061）